

2000～2010年における農業労働力の動向分析

－販売農家男子を対象として－

堀川 彰

(東北農業研究センター)

A Cohort Analysis of Farm Labor Force at the Period between 2000 and 2010

Akira HORIKAWA

(NARO Tohoku Agricultural Research Center)

3 結果

1 はじめに

我が国の農業労働力については、高齢化と共に、2000年以降10年間で農業就業人口が三分二程度まで減少する等、その量的側面も問題となっている。

販売農家（都府県）の男子に着目すると、2000年の人数を100とした場合、2010年では、農業就業人口全体では76であり、生産年齢人口（15～64歳）に限れば67となるが、農業就業人口の中で「仕事の主」である、より中核的な農業労働力である基幹的農業従事者に関しては、全体で92、生産年齢人口限定で79と、農業就業人口全体に比して緩徐な減少傾向を示している。ちなみに、2010年の販売農家戸数は、2000年時を100とした場合70である。

本研究では、都府県の販売農家男子のうち、中核的な農業労働力の2000～2010年における動向を分析して東北地域の特徴を抽出し、他地域との比較から、その特徴をもたらした要因を推定する。

2 分析方法

2000、2005、2010年農業センサスから、都府県販売農家における男子世帯員の中核的な農業労働力人口（基幹的農業従事者数・農業就業人口）の推移を分析する。

異なる年度の同一年齢階層間で比較を行うと、例えば50～54歳の都府県販売農家の男子基幹的農業従事者は、2000→2005→2010年の順に、78,792→77,445→53,779人と推移し、2005年からの5年間に激減したかの如き印象を与えるが、当該年の5年前の45～49歳のそれと比較すると、2005年時の77,445人は、2000年時の45～49歳の70,743人の9%増であり、また、2010年時の53,779人は、2005年時の45～49歳の48,732人の10%増であり、2005年の前後においてその動向に著変は認められない。従って、今回の分析に当たっては、過去の人口構造を考慮に入れない同一年齢階層間の単純比較は採らず、分析単位は5歳間隔のコーホート（「世代」と考えて良い）とする。

2000→2010年における都府県の販売農家男子の中核的な農業労働力の推移をコーホート別に見ると、農業就業人口で2000年時25～64歳、基幹的農業従事者で同20～64歳と、幅広いコーホートで実増していることが分かる（表）。

中核的な農業労働力の指標として、基幹的農業従事者数を採り、その動向に関する東北地域の特徴を挙げると、第一に、若年～壮年のコーホートにおいて都府県内増加数への寄与が最大であり、基幹的従事者数の都府県に占める割合を考慮しても、東北地域の寄与の大きさは明らかである（図1）。第二に、特に壮年コーホートにおいて、2005→2010年の増加数における寄与が、2000→2005年のそれと比較して大きい（図2）。第三に、県単位でも増加傾向に例外が無く、2000年時20～59歳の5歳間隔の8コーホート全てが、東北6県で2000→2005年、2005→2010年双方で一貫して増加を続けている。東北地域以外で、同様な地域全体での増加傾向の一貫性が保たれているのは、北関東と東山のみである。

上記の現象をもたらした要因を解析すべく、2005→2010年の男子基幹的農業従事者の都府県別増減と、都府県単位で取得可能な種々の指標との関連を見ると、コーホートにより、影響を与えていると統計的に推測可能な指標が異なることが分かる。具体的には、若年コーホート（2005年時25～34歳）では基幹的農業従事者数の増加数と「販売農家一戸あたり農業産出額（2005）」との間に $p<.01$ の有意な正の相関を認め、農業の条件優位な地域での増加が示唆されたが、2005年時35歳以上のコーホートではこの相関は有意ではなく、代わって、当該都府県の人口社会増率（2005→2006年）との間に有意な負の相関を認めた。この相関は特に2005年時35～44歳のコーホートにおいて $p<.001$ と高度に有意であった。

4 まとめ

2000→2010年の都府県販売農家男子の中核的な農

業労働力は、2000年時20代～60代前半の幅広いコーホートで増加し、増加への寄与は東北地域が最大であった。東北地域での増加は壮年コーホートで最も顕著であり、相関分析から、人口社会減率等の農外要因の関与が示唆され、地域の産業構造特性等の影響が考えられるが、詳細な分析は今後の課題である。

表 コーホート別に見た2000→2010年の基幹的農業従事者、農業就業人口増減（都府県）

2000年時年齢	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44
2010年時年齢	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54
基幹的農業従事者増減	9652	6803	6246	6309	8078
農業就業人口増減	-19023	4204	4831	4706	6129
2000年時年齢	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69
2010年時年齢	55～59	60～64	65～69	70～74	75～79
基幹的農業従事者増減	19068	63085	75860	25973	-57891
農業就業人口増減	17654	66807	81619	18529	-87252

資料：農業センサス（図1、図2も同じ）

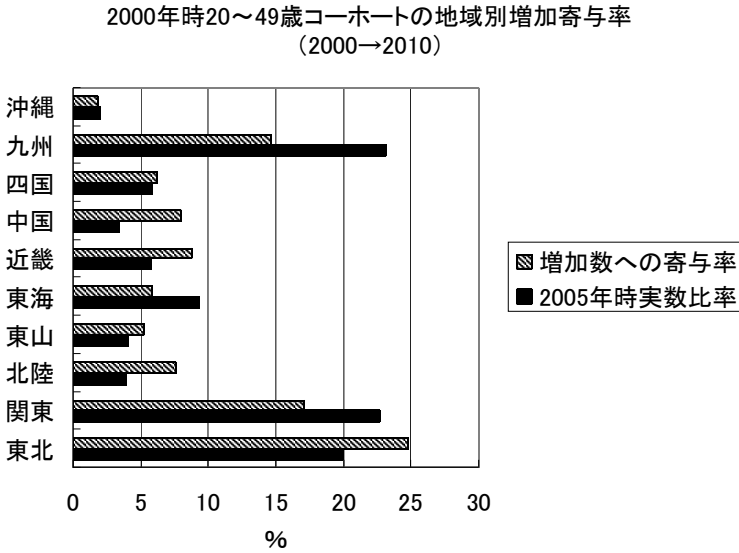


図1 地域別に見た若年～壮年コーホートの2000→2010年の販売農家男子基幹的農業従事者増減

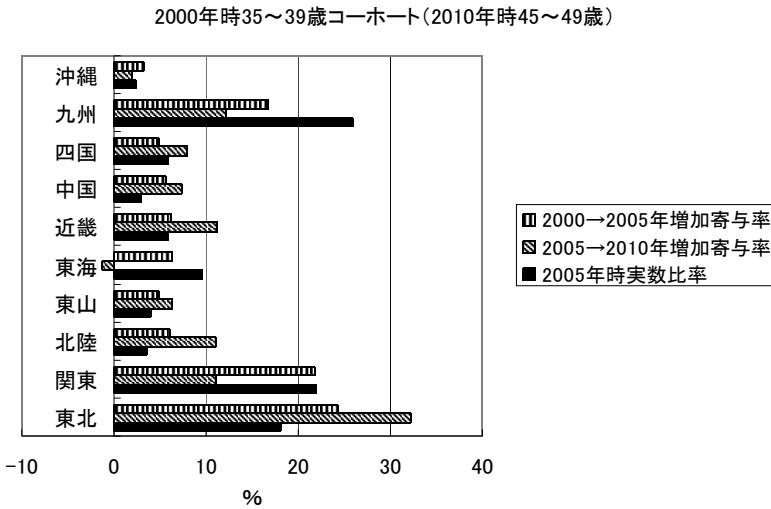


図2 地域別に見た壮年コーホートの2000→2005年および2005→2010年の販売農家男子基幹的農業従事者増減